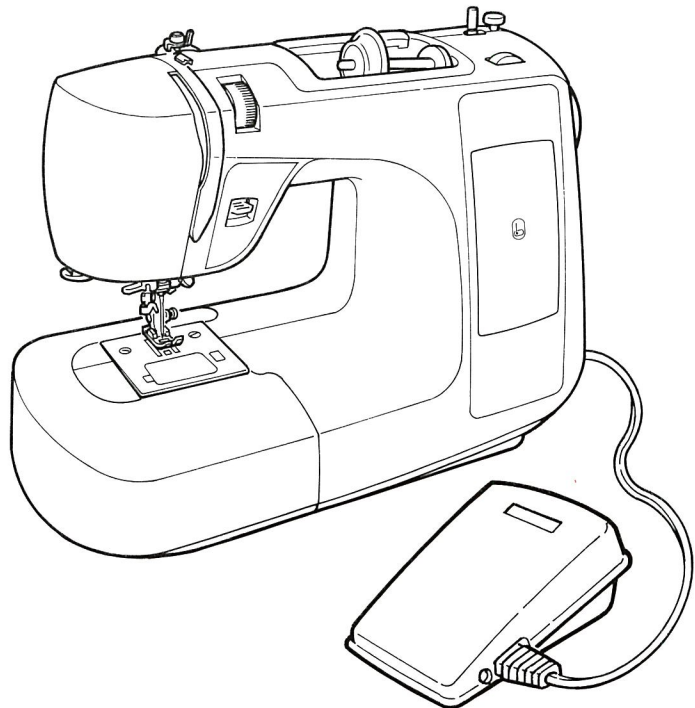
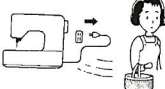
liza 20z

リーザ
HZL-20Z

取扱説明書

注意

安全にご使用していただくため、
ご使用前に必ずこの取扱説明書を
お読みください。また、いつでも
ご覧になれますように保管してください。

お買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

このミシンの特長をご理解していただき、正しく安全にご使用していただくために
どうぞこの「取扱説明書」をよくご覧ください。なお、このミシンは選びぬかれた純正部品を
使い、充分に品質管理された製品ですので多彩なソーイングをお楽しみください。

安全にご使用していただくために

このミシンを正しく安全にご使用していただくために、下記のことがらを必ずお守りください。
このミシンは日本国内向け、家庭用です。　FOR USE IN JAPAN ONLY

このマークの表示は感電、火災の原因となりますから、特にご注意ください。

1. 一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。

2. 下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。

●ミシンのそばを離れるとき。
●ミシンをご使用になったあと。
●ミシンのご使用中に停電したとき。

このマークの表示は感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。

1. コントローラーの上に物をのせないでください。

2. お客様ご自身での分解、改造はしないでください。

3. ミシンを操作するときはかま部などカバー類を閉じてください。

4. ミシンの縫製中は針から目を離さないようにし、針、はずみ車（プーリー）、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。

5. 針折れの原因になるような曲がった針はご使用にならないでください。

6. 針折れの原因になりますので、縫製中に布を無理に引張ったり、押したりしないでください。

7. お子様がミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全にご注意ください。

8. 下記のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。

●針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。
●下糸、上糸をセットするとき。

●ランプを交換するとき。（ランプが冷えてから行ってください）

●取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。

9. 落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。

10. ミシンやコントローラーに下記の異常があるときは速やかに使用を停止し、最寄りの販売店にて点検、修理、調整をお受けください。
●正常に作動しないとき。
●落下などにより破損したとき。
●水に濡れたとき。
●電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
●異常な臭い、音がするとき。

その他のご注意

長時間のゆっくりぬいを続けると異常発熱を防ぐため、ミシンが止まるようになっています。

約 20 分で安全装置が復帰して正常にご使用できます。

直射日光が当たる場所、湿気が多い場所には置かないでください。

シンナーなどの溶剤でふかないでください。

柔らかい布に中性洗剤を少量つけて、よくふきとってください。

もくじ

■付属品

基本押え（A）

ボタン穴かがり押え（E）

裁ち目かがり押え（C）

補助ベッドの中に付属品が入っています。

ブラインドステッチ押え（D）

ファスナー押え（B）

ボビン（3ヶ）

専用ドライバー

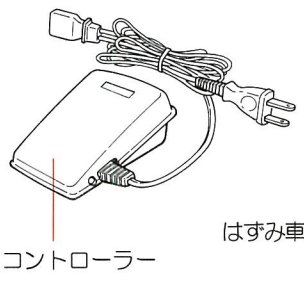
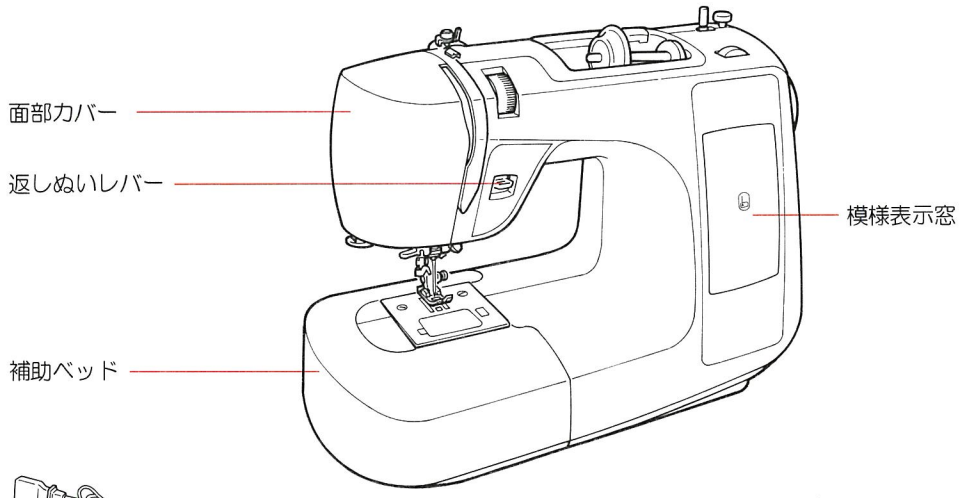
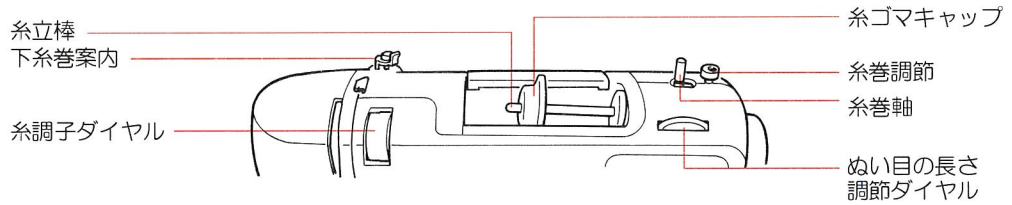
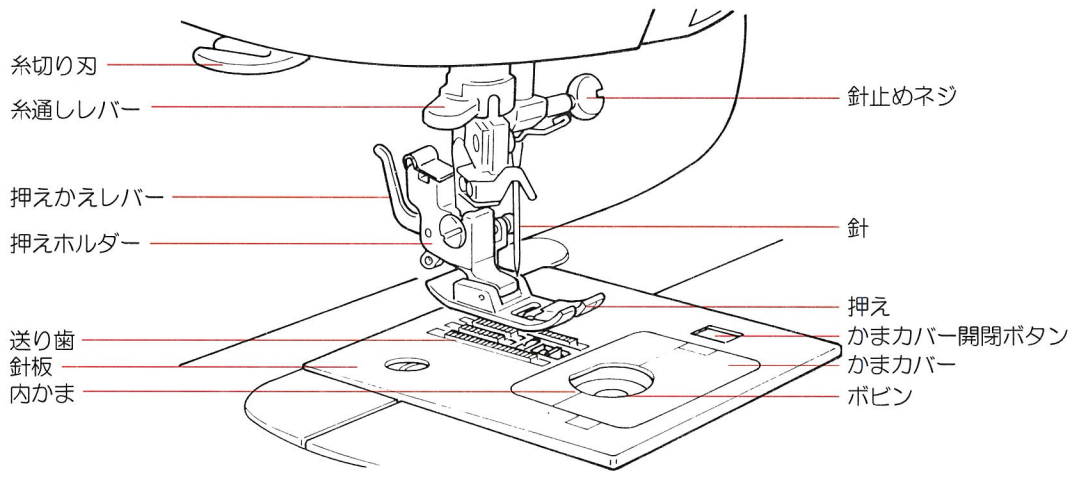
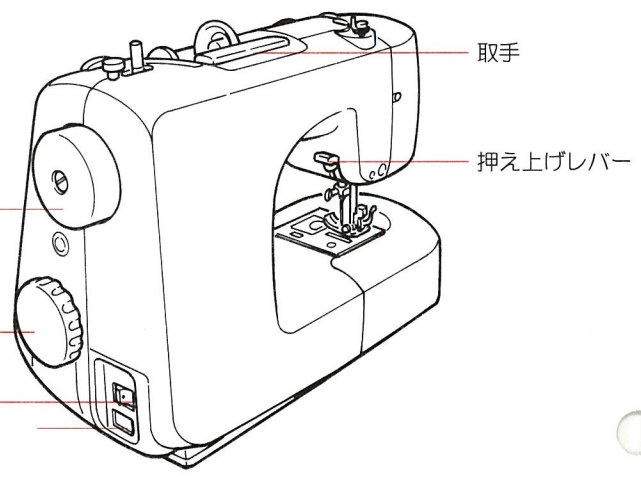
リッパー（糸ほどき）

糸ゴマキャップ（小）

針HA×1
11番　2本
14番　1本

※基本押え（A）は最初ミシン本体にとりつけられています。

付属品

■各部のなまえ

糸立棒
下糸巻案内
糸調子ダイヤル
糸ゴマキャップ
糸巻調節
糸巻軸
ぬい目の長さ
調節ダイヤル
面部カバー
返しぬいレバー
模様表示窓
補助ベッド
取手
押え上げレバー
コントローラー
はずみ車（プーリー）
模様選択ダイヤ
電源ランプスイ
コントローラー
糸切り刃
糸通しレバー
針止めネジ
押えかえレバー
押えホルダー
針
押え
かまカバー開閉ボタン
送り歯
針板
内かま
かまカバー
ボビン

■主なはたらき

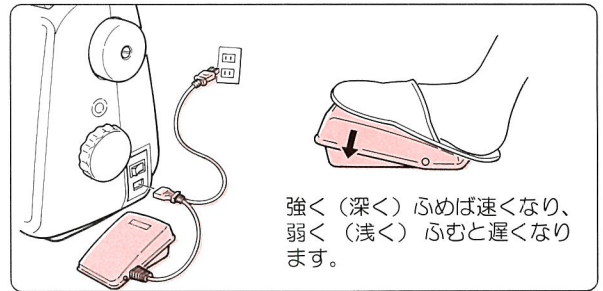
模様の種類

左基線	中基線	伸縮地用直線ぬい	まつりぬい	伸縮地用まつりぬい
直線ぬい				

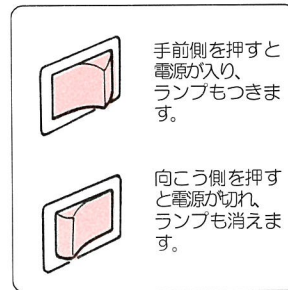
(小)	(中)	(大)	三点ジグザグ	スカラップぬい
ジグザグぬい				

裁ち目かがり	パッチワーク	伸縮強化ぬい	ボタン穴かがり	

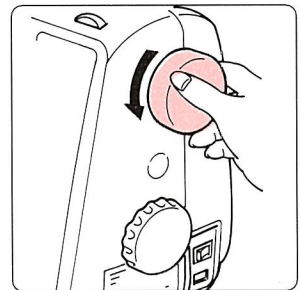
このミシンは伸縮素材（ニット、ジャージー地など）に適したぬい目（模様）を備えています。

伸縮地用模様

コントローラー

コントローラーのプラグをミシンのプラグ差し込み口に差し込み、一方のプラグを室内コンセントに差し込みます。

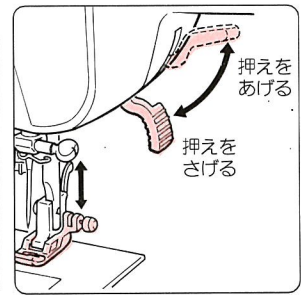
電源ランプスイッチ

手前側を押すと電源が入り、ランプもつきます。

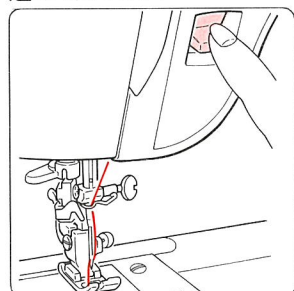
向こう側を押すと電源が切れ、ランプも消えます。

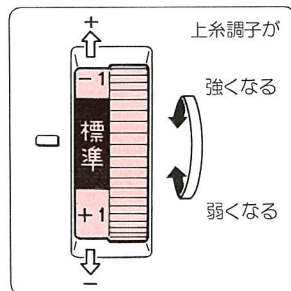
はずみ車

はずみ車を回すと針が上下します。はずみ車は、必ず手前に回してください。

模様選択ダイヤルと指標

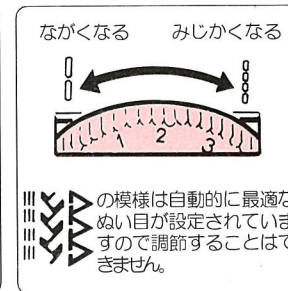
模様選択ダイヤルを回し、指標に合わせた模様がぬえます。

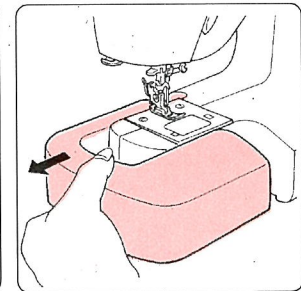
押え上げレバー

上にあげると押えがあがります。下へさげると押えはさがります。

返しぬいレバー

ぬい始め、ぬい終りに返しぬいをするとぬい目がほつれません。

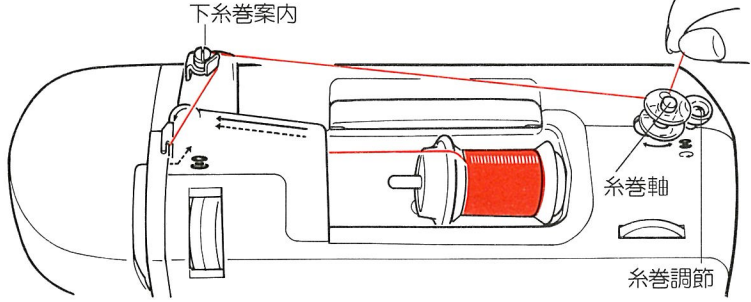
糸調子ダイヤル

上糸調子を調整します。

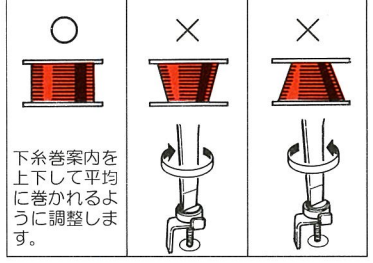
ぬい目の長さ調節ダイヤル

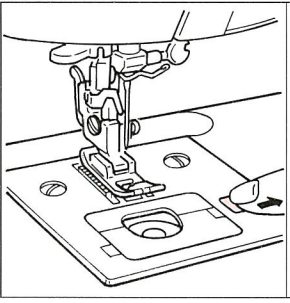
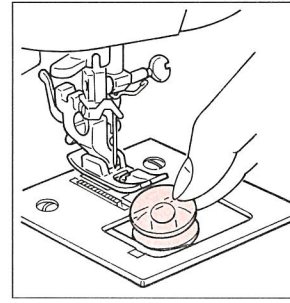
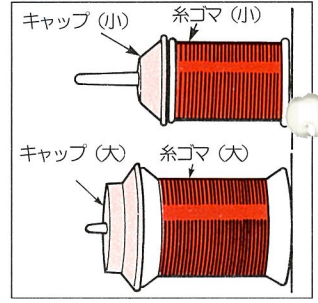
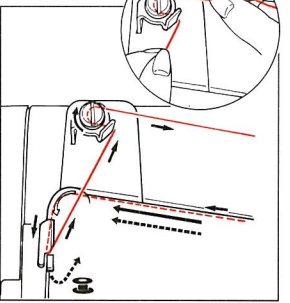
の模様は自動的に最適なぬい目が設定されていますので調節することはできません。

数字が小さくなると細かく、大きくなると荒くなります。

フリーアーム

補助ベッドを左へ引きますとフリーアームになります。

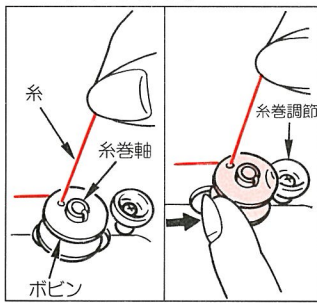
■下糸を巻くには

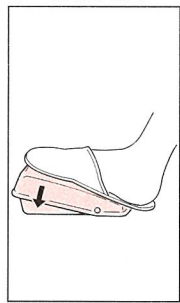
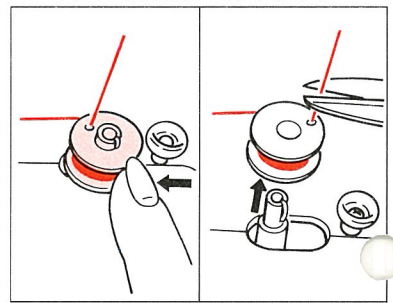
●下糸巻きの糸のかけかた

●下糸巻きの調節

糸によって、下糸が片寄って巻ける場合に調節します。

1 かまカバーを開けます。

⚠注意 かまカバーを開けるときは電源スイッチを切ってください。

2 ボビンをとり出します。

3 糸ゴマをセットします。

糸ゴマの外周に応じてキャップをかえてとりつけます。

4 下糸巻案内に入れます。

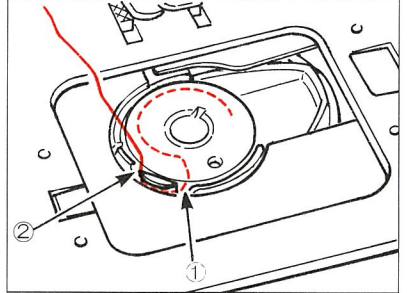
糸は右回りに、両手で下糸巻案内にかけます。

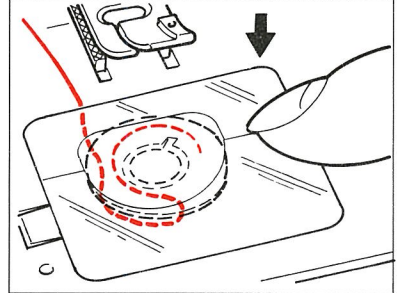
5 ボビンを糸巻軸にセットします。

ボビンを糸巻調節へ押しつけます。

6 スタートさせます。

7 ボビンを左側に戻します。

余分な糸を切り取りボビンを取り出します。

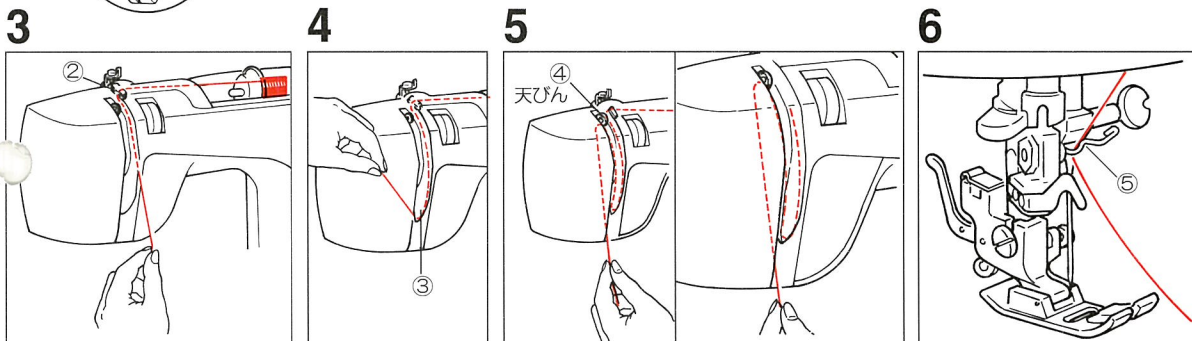
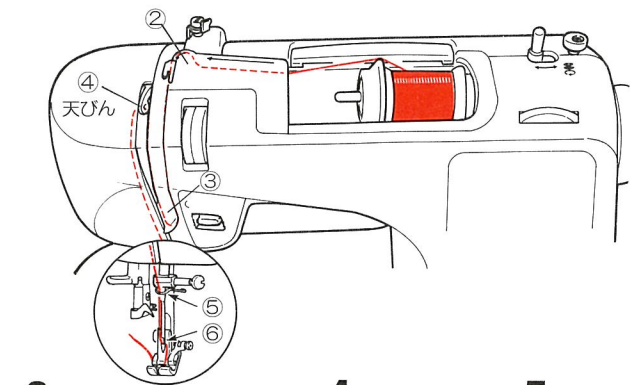
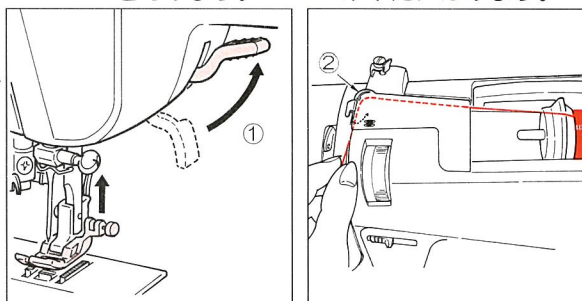
8 内かまに入れます。

ボビンの糸巻き方向を左巻きに！

9 内かまに糸をかけます。

①に糸をかけ②のミゾの上にのせ後ろへもって行きます。

10 かまカバーを閉じます。

■上糸のかけ方

1 最初に押え上げレバーをあげます。

2 糸案内にかけます。

3 ミゾに入れて下にもって行きます。

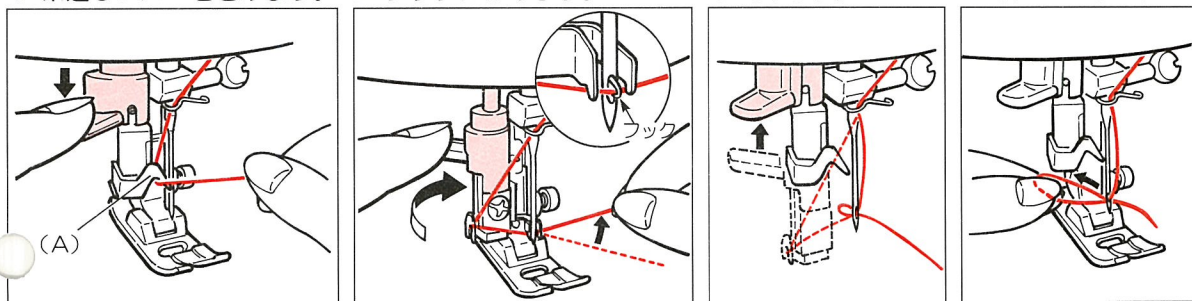
4 ③から上にもって行きます。

5 ④の天びんに糸をかけて下にもって行きます。

6 ⑤は右側からかけます。

針自動糸通し

※針が最上点にあることを確認してください。

1 押えをさげ糸通しレバーをさげます。

針を上にあげてから糸通しレバーをさげて（A）に糸をかけます。

2 フックにかけます。

糸通しレバーをいっぱいまで下げてから矢印の方向に止まるまで回転させ糸をフックの下へ持って行きます。

3 糸通しレバーをあげます。

糸通しレバーを戻すと、糸は針穴に通ります。

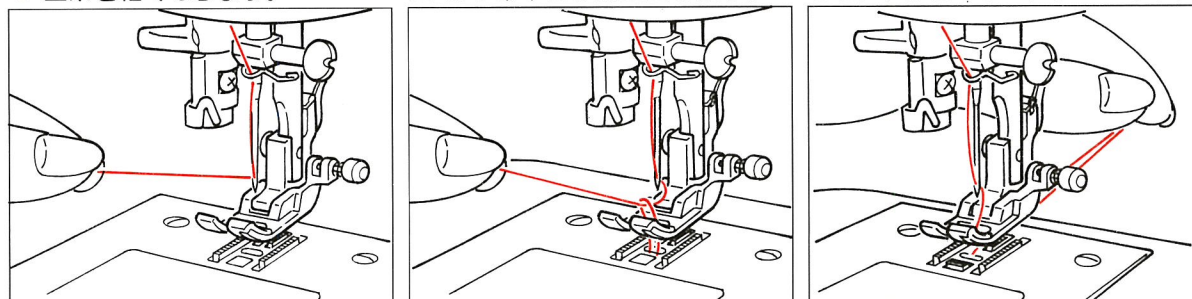
4 糸を引き出します。

通した糸を針穴から10センチぐらい引き出します。

下糸の引きあげ方

1 上糸を軽くもちます。

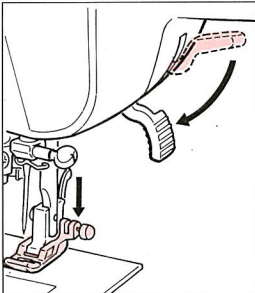
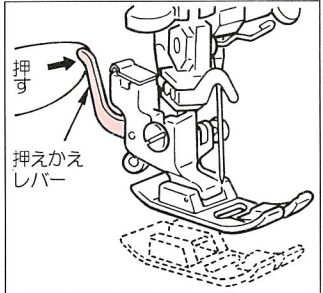
2 はずみ車を手前に回します。

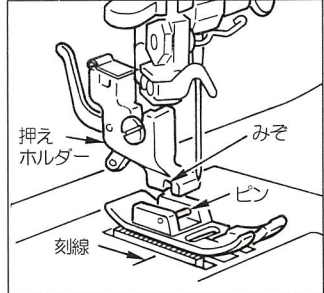
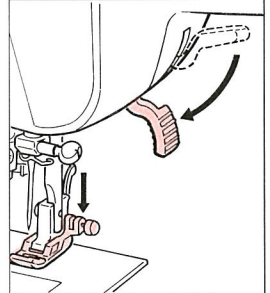
針が上下して下糸を引き出します。

3 上･下糸を10センチ出します。

上･下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

■押えのとりかえ方

⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えをあげます。

2 押えをはずします。

押えかえレバーを矢印の方向に押します。

3 押えのピンと刻線を合わせます。

4 押えをさげます。

押え上げレバーを下げると押えはセットされます。

■押えと各模様の関係

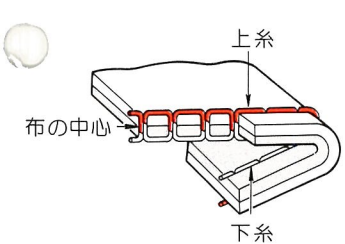
押えをまちがえますと針がぶつかり、折れたり、曲ったりしますのでご注意ください。

押えと記号	基本押え										ファスナー押え	裁ち目かがり押え		ブラインドステッチ押え		ボタン穴かがり押え	
	押え記号 A										記号 B	記号 C		記号 D		記号 E	
模様	左基線	中基線		(小)	(中)	(大)					左基線使用		(大)				
主な用途	直線ぬい		直線伸縮ぬい	ジグザグぬい			三点ジグザグ 裁ち目かがり	模様ぬい	パッチワーク	伸縮強化ぬい	ファスナーつけ	裁ち目かがり（オーバーロック）		まつりぬい	まつりぬい 伸縮地用	ボタン穴かがり	

■各模様の最適なぬい目の長さと調節範囲

模様	直　線	伸縮地用直線	ジグザグ			三点ジグザグ	ブラインド		スカラップ	スーパー模様	ボタン穴かがり
最適範囲	2～2.5	2.5	1	1.4	2	1	2	1.5	0.5	自　動	0.4～0.6
調節可能範囲	0～4	0～2.5	0～4			0～4	0～4		0～4	自動的に最適なぬい目の長さが設定されていますので調節できません。	0～4
調節例 (0.5～4)	～	～ 0.5 2.5	～	～	～	～	～	～	～		～ (0.2) (1)

※伸縮地用直線（ ）のぬい目の長さの最大は2.5です。

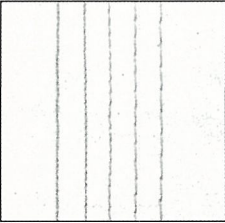
■糸調子の合わせ方

上糸と下糸のからみが布の中心にくるのが正しい糸調子です。

■布地・糸・針の関係

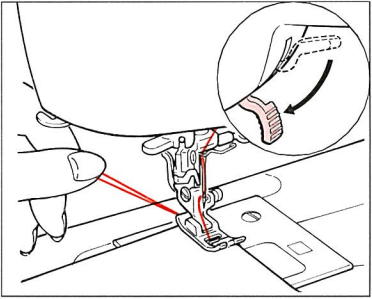
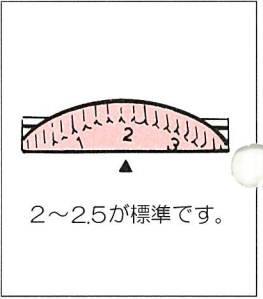
	布　地	ミシン糸	針 HA×1	ぬい目の長さ 直線ぬい	ぬい目の長さ ジグザグぬい	糸調子の目安
薄地ぬい	ローン	絹ミシン糸　80～100番	(9番)	1～3	1～4	-1 標準 +1
	ジョーゼット	化繊・細ミシン糸 90・100番	11番			
	トリコット	化繊ミシン糸　60～100番	ニット針 11番			
	ウール・化繊布	絹ミシン糸　80番 化繊ミシン糸　60～100番	11番			
普通地ぬい	普通木綿・化繊布	綿糸　50～80番 化繊ミシン糸　50～60番	11～14番	1.5～3	0.5～4	-1 標準 +1
	薄手ジャージー	絹ミシン糸　50番 化繊ミシン糸　50～60番	ニット針 11番			
	一般ウール・化繊服地		11～14番			
厚地ぬい	デニム	綿糸　30～50番 化繊ミシン糸　30～50番	14～16番	2～4	0.5～4	準 +1 +2
	ジャージー	絹ミシン糸　50番 化繊ミシン糸　50～60番	ニット針 11番			
	コート地	絹ミシン糸　50番	11～14番			

※ニット針（HA×1sp）は目とびを防ぎ伸縮性の布地に適します。

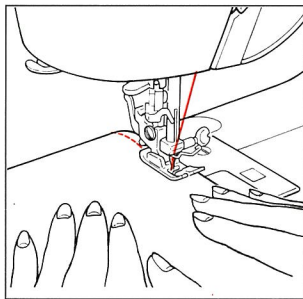
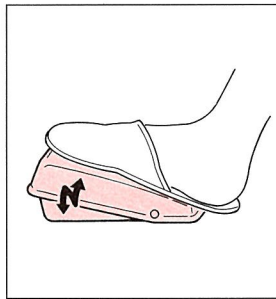
■直線ぬい

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

直線ぬいは、ぬいの基本です。
布地に適した針と糸を選びましょう。

1 直線もようを選びます。

2 押えを確かめます。

3 布地を入れ、押えをさげます。

布地を押えの下におき、ぬい始める位置に針をおとします。上・下糸をそろえて押えをさげます。

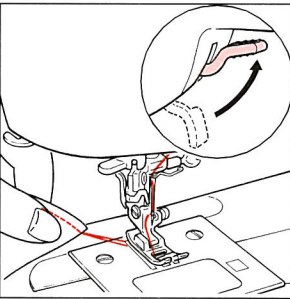
4 ぬい目の長さを決めます。

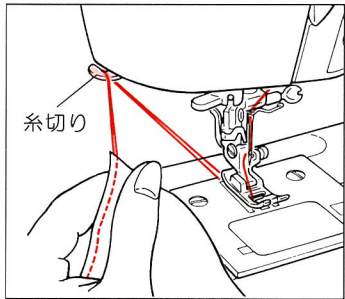
5 スタートさせます。

6 布地に軽く手をそえます。

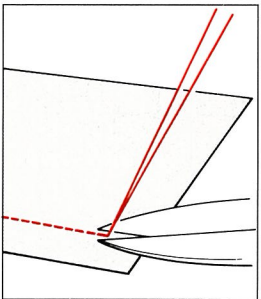
ぬっている間は布地をムリに引っぱらないようにします。

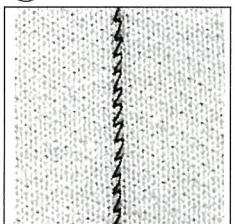
7 ぬい速度を調節します。

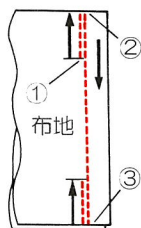
8 ストップさせます。

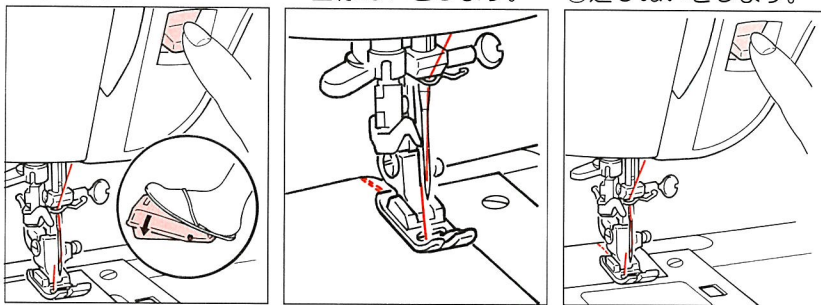
9 押えをあげて布地を取り出します。

針が完全に止まってから、押え上げレバーをあげます。

10 糸を切ります。

上・下糸をそろえて10センチくらい引き出し、面部カバーについている「糸切り」で糸を切ります。

11 布地の裏で糸を結びます。

布地の裏に上糸を引き出し、上糸と下糸を結び、結び目のきわで糸を切ります。

伸縮地用直線ぬいについて

ぬい目が伸縮しますのでニット、ジャージー地などの直線ぬいとして使用できます。

●返しぬい（ほつれ止め）

①返しぬいレバーを押しながらスタートさせます。

②指をはなすと直線ぬいをします。

返しぬいレバーから指をはなすと直線ぬいになります。

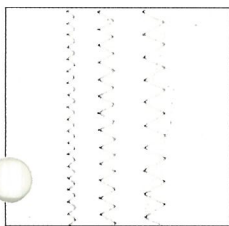
③返しぬいをします。

●厚地のぬい始め

ぬいしろが重なった布端よりぬう場合は、押えについているボタンを使うと、押えが布地と平行になり、スムーズにぬうことができます。

押えについているボタン（バネ）を押えホルダーのミゾに押し込みながら押えをさげます。

■ジグザグぬい

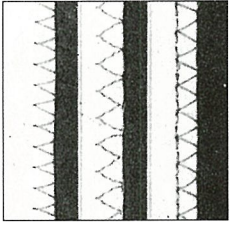
⚠注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 ジグザグ模様を選びます。

3 種類のうちお好みの振り幅模様に合わせます。

2 押えを確かめます。

●ジグザグ模様の振り幅とぬい目の長さの関係

模様			
振り幅	(小) 1.5	(中) 3.3	(大) 5
ぬい目の長さの調節	0.5 ～ 4	0.5 ～ 4	0.5 ～ 4

布地の裁ち目がほつれるのを防ぐために用います。

注意
押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 模様を選びます。

3 種類のうちお好みの模様を選びます。

2 模様にあった押えに変えます。

の模様は必ず基本押え（A）をお使いください。

3 ぬい目の長さを決めます。

4 裁ち目かがり押えを使う場合

布端をガイドにあてててぬいます。

■伸縮強化ぬい
（ストレッチステッチ）

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

伸縮性のある布地や、力がかかってほつれやすい部分などに使うとぬい目がしっかりします。

1 模様を選びます。

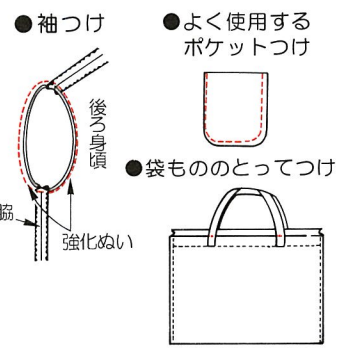
2 押えを変えます。

3 ぬい目の長さは自動的に決まります。

この模様はぬい目の長さ調節ダイヤルの目盛がどこの位置にあっても自動的に最適なぬい目になります。

■使用例

●袖つけ　●よく使用するポケットつけ

●袋もののとってつけ

■パッチワーク

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 地ぬいをします。

2 枚の布地に地ぬいをします。

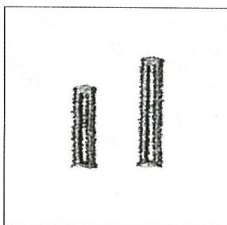
2 模様を選びます。

3 押えを確かめます。

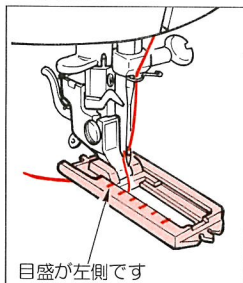
4 ぬい目の長さは自動的に決まります。

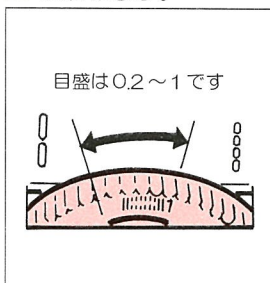
この模様はぬい目の長さ調節ダイヤルの目盛がどこの位置にあっても自動的に最適なぬい目になります。

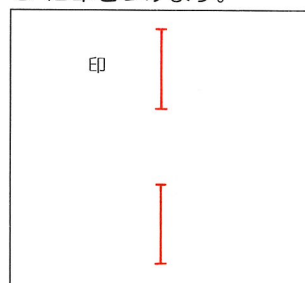
両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

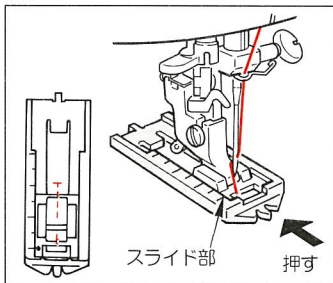
■ボタン穴かがり

ぬう布地やボタンの大きさに合わせて模様を選びます。

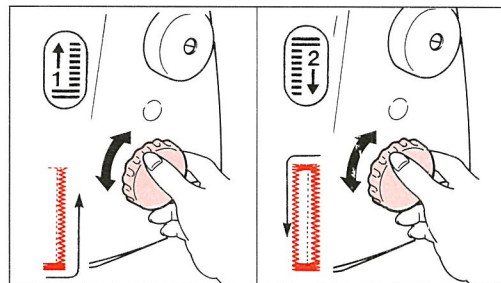
⚠注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押え（E）をセットします。

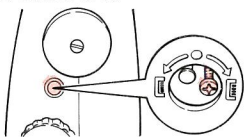
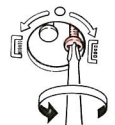
上糸を押えの下へくぐらせ横へ出します。

2 ぬい目の長さを合わせます。

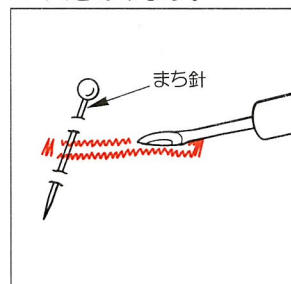
3 ボタン径を測り布地に印をつけます。

ボタン穴の位置にチャコでI印をつけます。
（ボタンの直径＋ボタンの厚みがかがり穴の長さです。）

4 スライド部を押して布地の印に合わせます。

印を押えの針穴の中心に正しくセットして、押えをさげます。

5 ボタン穴かがり模様を下記順序に選んでぬいます。

●左右のぬい目の長さが合わないときの調整方法

⚠注意 ぬい目を調整するときは電源スイッチを切ってください。

1. 調整するときは の模様を選びます。
2. はずみ車の下の調整穴のキャップをはずして、ぬい目の状態に合わせて調整します。

右側が粗すぎるとき

右側が細かすぎるとき

調整時のご注意
ぬい目を見ながら少しづつ（45度ぐらい）回してためしぬいをし、合わせてください。
回しすぎるとネジが外れたり、トラブルの原因となりますのでご注意ください。

左側のぬい目を基準として右側のぬい目を調整します。

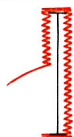
6 リッパーで穴をあけます。

切りすぎないようまち針を使うと失敗しません。

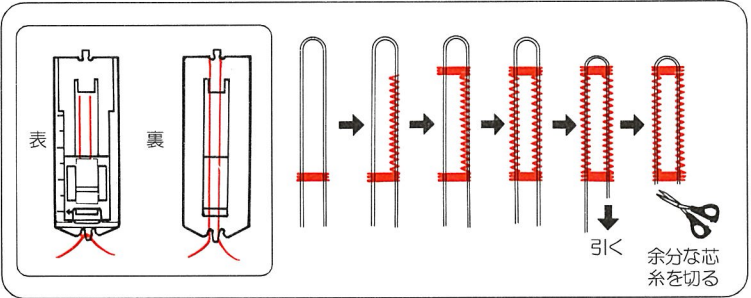
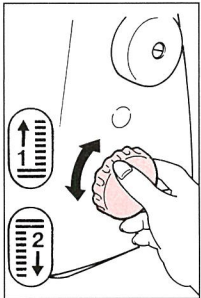
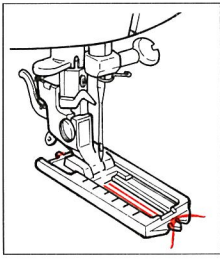
ボタン穴かがりを失敗したとき
ー失敗した場所により操作がちがいますー

 をぬっている途中で失敗した場合

1. 押えを上げて糸をほどきます。
2. 模様選択ダイヤルで を選びます。
3. 10針ぐらい空転させます。
4. 模様選択ダイヤルで を選び最初からぬい直します。

 をぬっている途中で失敗した場合

1. 押えを上げて糸をほどきます。
2. 模様選択ダイヤルで を選び最初からぬい直します。

■芯入りボタン穴かがり

⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

芯糸を入れてぬうとボタン穴の伸びを防ぎ、丈夫なボタン穴かがりができます。芯糸にはレース糸、または穴糸を使用します。

芯糸入りのボタン穴かがりをするときは、 芯糸をボタン穴かがり押えの裏側の先端にひっかけて裏側の手前を結びます。 そのままボタン穴かがり押えを取りつけて穴かがりをすれば、 芯糸入りのボタン穴かがりができます。

■まつりぬい
（ブラインドステッチ）

⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

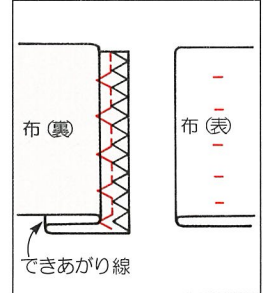
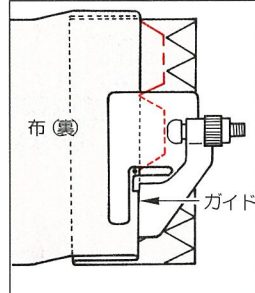
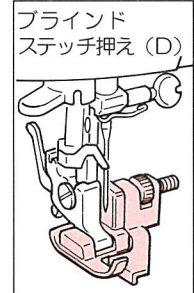
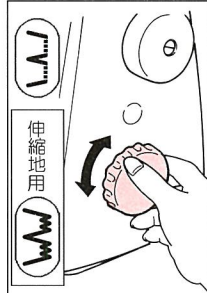
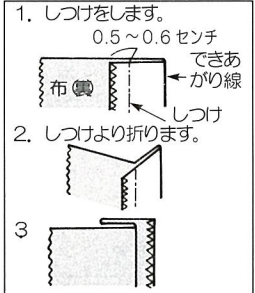
1 裁ち目かがりをして布地を折ります。

裁ち目かがりは 11 ページ参照

2 模様を選びます。

3 押えをかえます。

4 押えのガイドに当ててぬいます。

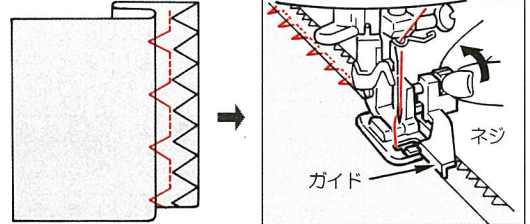
押えのガイドを折り山にピッタリ当ててぬいます。

5 布地をかえします。

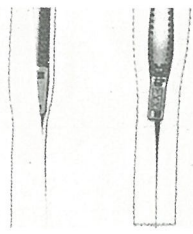
ぬい終わりましたら布地を折り返します。

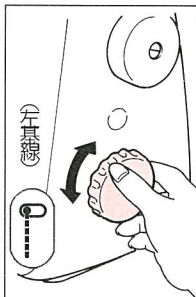
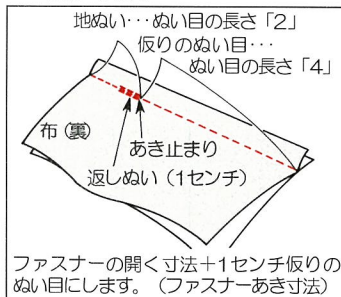
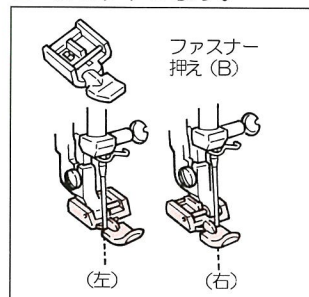
●ブラインドステッチ押えのガイド調節方法

折り山にぬい目がかからない場合

ネジを手前に回しますとガイドは右へずれます。

折り山にぬい目がかかりすぎた場合

ネジを向こう側に回しますとガイドは左へずれます。

■ファスナーつけ

ファスナーつけは一般的に脇明きファスナーつけと、つき合わせファスナーつけがあります。

⚠注意
押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 左基線の直線を選びます。

中基線はファスナー押えに針が当りますので必ず左基線を選んでください。

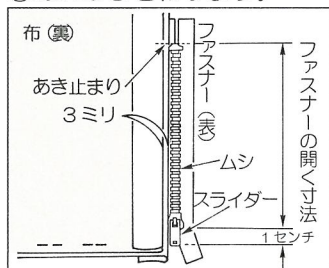
2 基本押え（A） を使ってぬいます。

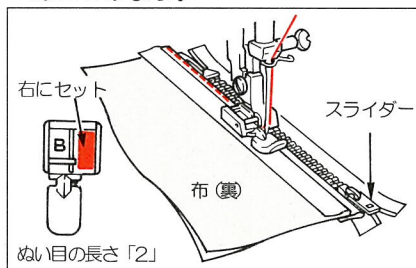
布地を中表に合わせて、地ぬいと取り付けるファスナーの寸法を確かめて仮りぬいをします。

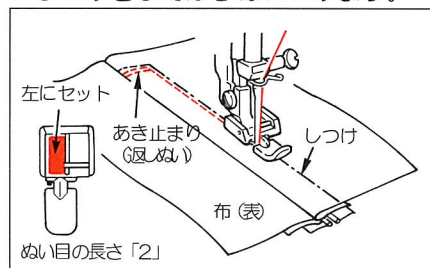
3 ファスナー押え（B）をセットします。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右へセットします。右側をぬうときは、左へセットします。

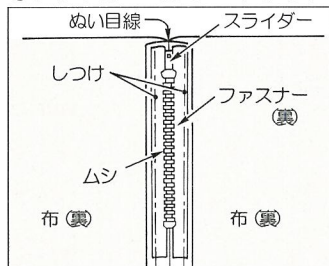
脇あきファスナーつけ

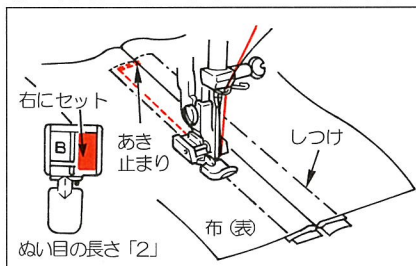
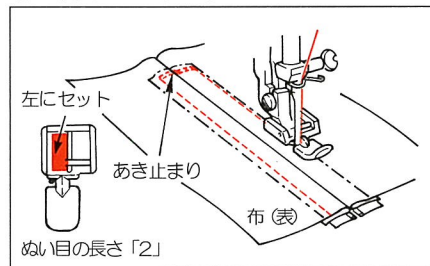
①ぬいしろをわります。

ぬいしろをきちんとわり、後ろ布のぬいしろを3ミリ出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をムシのきわにあてます。

②ファスナーの下方から上方にぬいつけます。

押えの端をムシのきわに当ててぬいます。ファスナーのスライダーのところは手前5センチくらいでミシンを止め、スライダーを押えの向こう側へさげて、端までぬいつけます。

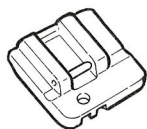
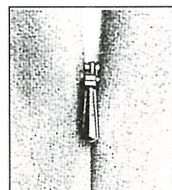
③上布をファスナーの上にかぶせしつけをしてからぬいつけます。

スライダーを引き上げて、上布をファスナーの上にかぶせてしつけをします。あき止まりに返しぬいをして図のようにぬいます。スライダーのところは仮のぬい目をほどいてスライダーを下げ、残りをぬいます。

つき合わせファスナーつけ

①ファスナーをしつけます。

ぬいしろをわり、 ぬい目線にファスナーのムシの中心を合わせて、しつけをします。

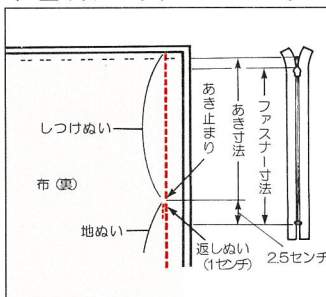
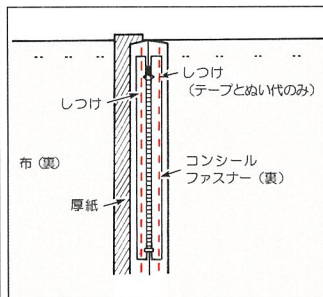
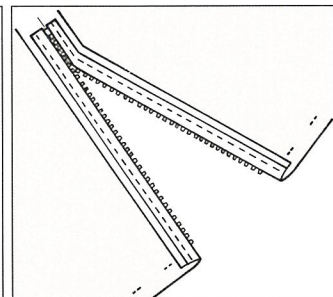
②左側をあき止まりからぬいます。

③右側をぬいます。

ぬい終わりましたら仮りのぬい目をほどきます。

■別売品のご紹介

コンシール押え

使う模様

ファスナーのぬい目が布地の裏に出ないので、つき合わせの状態で、あきの始末ができます。

⚠注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

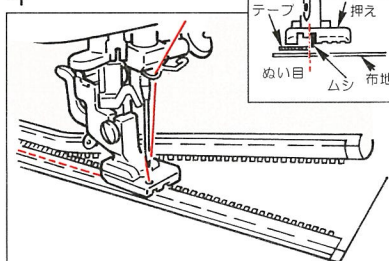
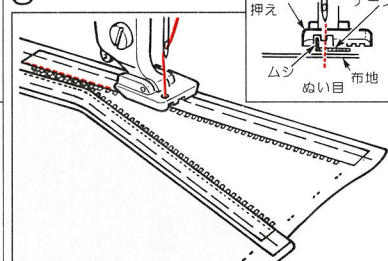
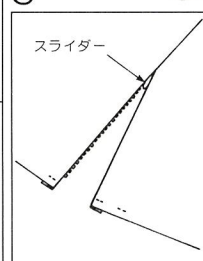
1 ファスナーあき寸法を確かめ基本押え（A）でぬいます。

布地を中表に合わせ、布端よりあき止まりまでしつけぬいをします。あき止まりからぬい目を（2.0）に変えて、1センチ返しぬいをし、所定の位置までぬいます。ぬいしろをきちんとわります。

2

ぬい目線の上にコンシールファスナーの中心をのせて、ぬいしろと表布の間に厚紙を入れ、ぬいしろとファスナーテープを両側とも手のしつけでぬい止めます。しつけが終わったら厚紙をとります。

3

1図のあき止まりまでぬったしつけぬいをほどき、ファスナーを開きます。

4

一方のファスナーのムシを、押えのみぞに合わせます。指でムシを立てるようにします。ムシのきわに、あき止まりからミシンをかけます。

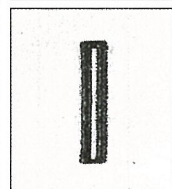
5

もう一方のぬいしろも同じ方法でぬい合わせます。（ファスナーテープのあき止まりから下の部分は、ぬいしろにぬいつけられずに残ります。）

6

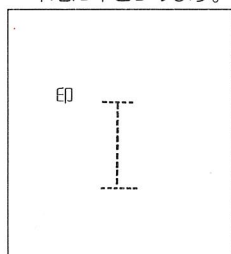
スライダーを中より出し、上に引きあげます。

手動BH押え

使う模様

厚地の布を使った短冊あきや台衿の部分に穴かがりをする場合に用います。

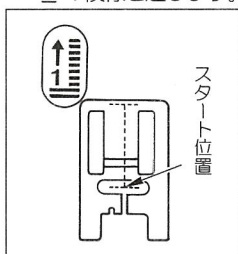
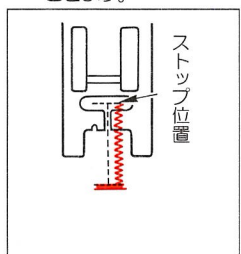
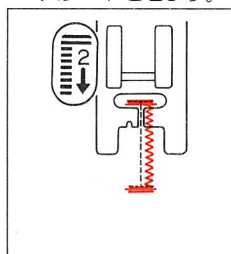
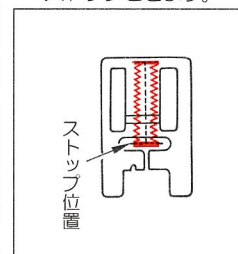
⚠注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

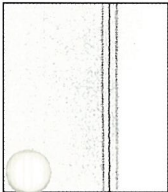
1 ボタン径を測り布地に印をつけます。

2 の模様を選びます。

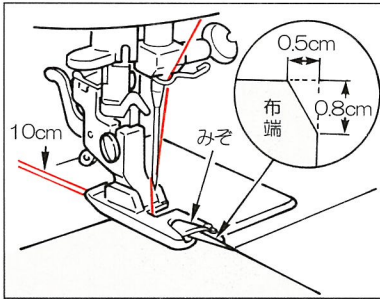
布地の印に合せてスタートさせます。

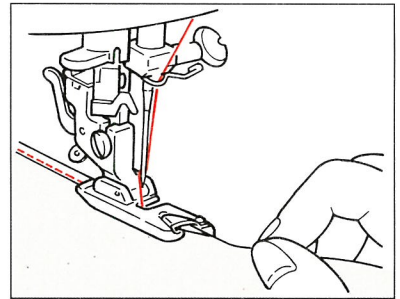
3 印の最後でストップさせます。

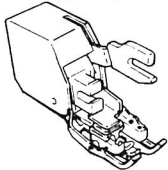
ストップ位置

4 の模様を選びスタートさせます。

5 最初の位置に戻ったらストップさせます。

返しぬいをして終了です。

三ツ巻き押え

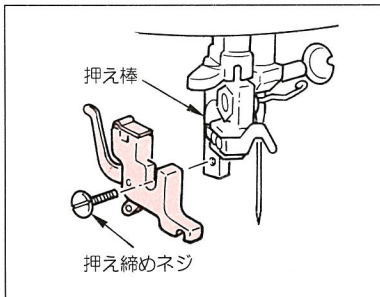
⚠注意
押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

布端を三つ折りにしながらぬっていく方法で、シャツやブラウスの裾、フリルやハンカチの縁の始末などに使います。

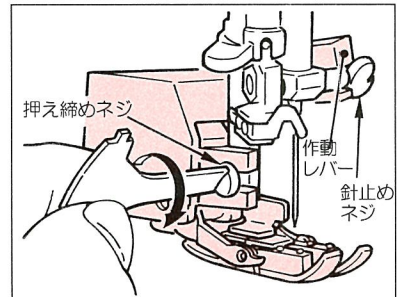
1

布地を巻き込みやすくするために角を少し切ります。押えのうず状のみぞの中に、布地を針がとどくところまで入れてから、針をおろして押えをさげます。

2

上下の糸端を左手で引き、手ではずみ車を３～４回まわします。正しく巻き込まれたら、右手の親指と人さし指で布地をつまみ、常に適量がくり入れられるようにしてぬっていきます。

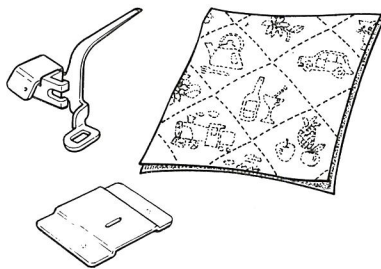
布づれ防止に・・・ 上送りアタッチメント

⚠注意
押えホルダーや上送りアタッチメントの取り付け取り外しには、電源スイッチを切ってください。

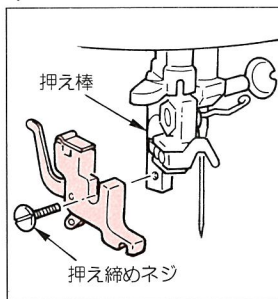
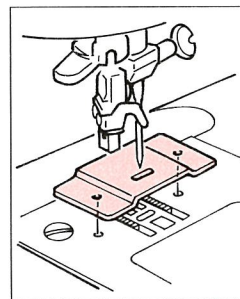
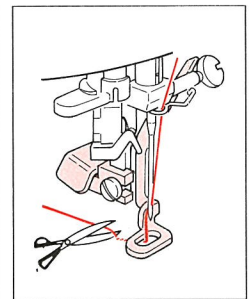
一般にミシンで送りにくい素材（ニット、ジャージー、ビニールクロス、人工皮革、皮など）に使います。
なめらかな送りで布ズレを防ぎ、きれいなぬい上りになります。

1 押えホルダーをはずします。

押え棒をあげて、押え締めネジをはずし押えホルダーをはずします。

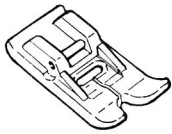
2 上送りアタッチメントを取り付けます。

作動レバーの二また部分を針止めに入れ、とりつけ部を押え棒にはめこみ、押え締めネジをしっかりしめます。

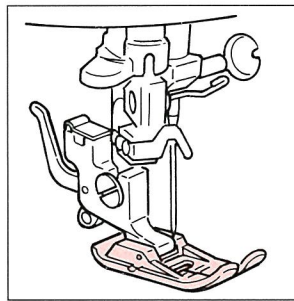
※ぬい速度はゆっくりから中ぐらいでぬいます。

キルトアタッチメント

キルト芯を入れて
オリジナルキルトが作れます。
フリー刺しゅうにも最適です。

1 押えホルダーをはずします。

2 針板カバーを取り付けます。

3 キルト押えを取り付けます。

上糸は押えの穴に通し2,3針ぬって余分な糸を切ってからぬい始めます。

⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

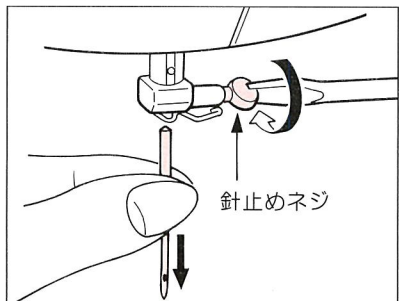
テフロン押え

テフロンはすべりが良いため送りにくい素材（ジャージー、ビニールクロス、皮など）に適します。

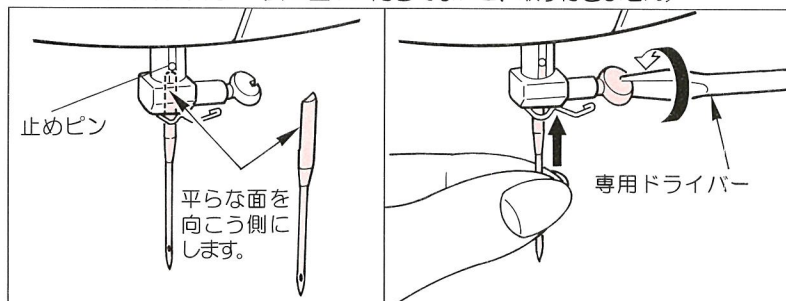
押えの交換のときは
電源スイッチを切ってください。

■仕様表

項　目	仕　　様
本　体　寸　法	幅410×高さ300×奥行180（mm）
ケースセット寸法	幅440×高さ305×奥行215（mm）
重　　量	6.6kg
定格電圧／消費電力	100V／80W　50／60Hz
ランプ消費電力	100V／15W

■針の交換

⚠注意 針の交換のときは電源スイッチを切り、室内コンセントからプラグを抜いてください。

1 針のはずし方

①針棒を最上部にあげます。
②針止めネジをゆるめます。

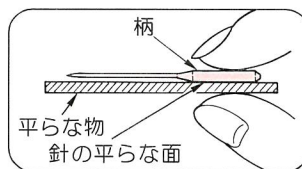
2 針の取り付け方 （針が正しい向きでないと、取り付きません）

針の平らな面を向こうにして止めピンまで差し込みます。

針止めのネジをかたくしめます。

●針の選び方

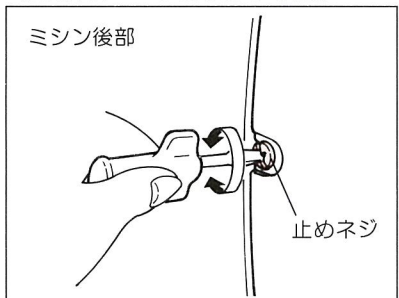
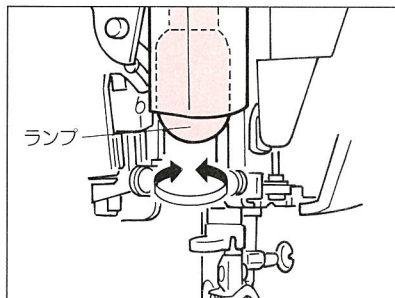
針をお買い求めの際は、
家庭用ミシン針のHA×1
またはHA×1SP（ニット針）
を指定します。

太さの番号表示
数字が大きくなると
針が太くなります。

●針の調べ方

すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。
針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにします。

■ランプの交換

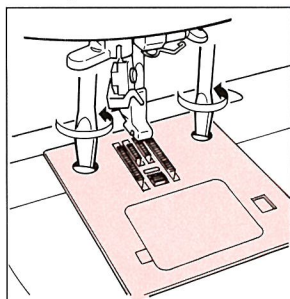
⚠注意 ●ランプの交換のときは電源スイッチを切り、室内コンセントからプラグを抜いてください。
●ランプは冷えてから交換してください。

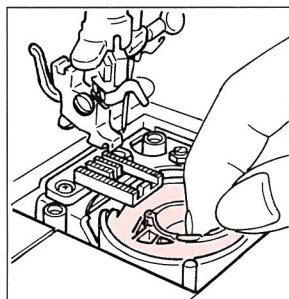
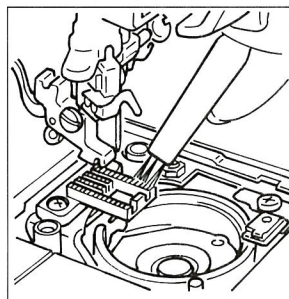
（面部カバーのとりはずし方）

ミシン後部の止めネジをゆるめ、
横にまっすぐ面部カバーをぬきます。

ランプをまわして、とりはずし、
新しいランプをとりつけます。

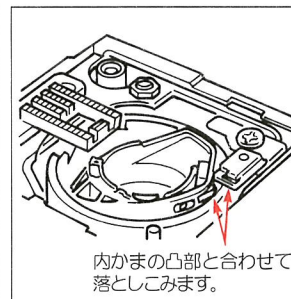
●ランプの消費電力は15Wです。
●ランプのお買い求めは、このミシンをお買い上げいただきました販売店でお求めください。

■お手入れ（掃除）

⚠注意 ミシンのお手入れをするときは電源スイッチを切り、室内コンセントからプラグを抜いてください。

1 針板をはずします。

針や押えをはずしてから針板をはずします。

2 内かまをはずします。

3 ブラシなどを使います。

送り歯とかまの中や周辺をきれいにします。
たくさんたまってしまったときは掃除機を使うときれいになります。

4 内かまをセットします。

■故障かな・・・・・・というときは

下記のことをお調べのうえ、 それでも具合の悪い場合は、 お買い求め販売店にご相談ください。

症状	原因 （理由）	処置方法	参考ページ
布を送らない	●ミシンが空転している ●ぬい目の長さが「0」になっている	●糸巻き軸を左へ戻します ●送り「1～4」に合わせます	5 8
針が折れる	●針が曲っているか取り付け方を誤ったとき ●押えと選んだ模様が合わないとき ●針、糸、布地の関係が悪いとき	●針を交換し、正しく取り付けます ●模様に合った押えを使います ●布地に合った針と糸を使います	18 7 8
上糸が切れる	●糸のかけ方が間違っているとき ●糸が必要以外の所へからんでいるとき ●上糸の調子が強すぎるとき ●針が曲っているとき	●正しくかけ直します ●糸立棒・糸案内などからんでいるか調べます ●糸調子を合わせます ●新しい針にとりかえます	6 - 8 18
下糸が切れる ぬい目がとぶ	●針のつけ方が間違っているとき ●針が曲っているとき ●糸のかけ方が間違っているとき	●正しくとりつけます ●新しい針にとりかえます ●正しくかけ直します	18 18 6
ぬいじわが出る	●糸調子が強すぎるとき ●布地と針と糸が合ってないとき	●糸調子を合わせます ●正しく合わせます	8 7
布の裏側にタオル状に糸がからんでいる	●糸のかけ方が間違っているとき	●正しくかけ直します	6
回転が重く、音が高い	●かまに糸くずがたまっているとき	●かまを掃除します	18
スタートさせてもミシンが回らない	●糸巻軸が下糸巻き状態になっている	●糸巻軸を左側に戻します	5
糸通しができない	●針が上にあがっていないとき ●針をとりつけるとき上までつき当ててないとき ●糸通しレバーをさげたまま（糸通し中）誤ってミシンを回してしまったとき	●はずみ車を回して、針を最上点にあげます ●針を正しくとりつけます ●はずみ車を手でわずか向こう側（ぬう時と反対）に回します	5 18 -

■アフターサービスと保証

●このミシンには保証書がついています。
●保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
●保証期間中は、お買い上げの日から1年間です。
●保証期間中でも有料になることがありますので、ご了承ください。（保証書に詳細を記載してありますので、そちらをご覧ください。）
●保証期間経過後の修理につきましては、販売店にご相談ください。
当社は、このミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り時点から最低8年間保有しています。

JUKI

アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、
下記の当社営業所へお問い合わせください。

北海道営業所‥‥〒060-0055 札幌市中央区南五条東3-14-5 ☎011 (512) 6895
東京営業所‥‥‥〒182-0022 東京都調布市国領町4-51-7ピエール・シークル2F ☎0424 (80) 2801
大阪営業所‥‥‥〒530-0001 大阪市北区梅田1-3 大阪駅前第一ビル5Ｆ ☎06 (6348) 1351
広島営業所‥‥‥〒733-0032 西区東観音町2-15 ロッコ－マンション303 ☎082 (234) 7900
九州営業所‥‥‥〒811-2112 福岡県粕屋郡須恵町大字植木590-5 ☎092 (936) 9050
JUKI中部販売（株）‥〒452-0000 愛知県西春日井群春日町大字落合字宮重町521 ☎052 (400) 1234

JUKI 株式会社
〒182-8655 東京都調布市国領町8-2-1
☎03-3480-7112

117 020102(ST)